

ひょうぶ(企業探訪) ④

2022学生が聞く

コーヒー核に課題解決

飲料や、外食産業向け食材の輸出入などを手がける食品商社。コーヒーから、業務用食材へ幅を広げ、社会課題の解決にも取り組んでいる。関西大の西岡健一教授のゼミ生が、石脇智広社長を訪ねた。

―事業内容は。

「コーヒーの生豆や紅茶の茶葉を産地から輸入したり、飲食店や量販店向け業務用食材の輸入販売や日本食の輸出を行ったりしています。営業担当者が品質管理をしながら、販売にまで関わることで、迅速に現地の情報を顧客に伝えることができます」

―課題は。

「数年後にお客さまとなる若い世代は、コーヒーチェーンが扱う甘いお菓子のようなコーヒーしか知らない。ひきたてのコーヒーの

石光商事(神戸市灘区) 石脇智広社長(52)



石光商事の石脇智広社長を訪ねた関西大3年の糟谷有香莉さん―神戸市灘区岩屋南町

「香り」と味をぜひ知ってほしいと思います。一般消費者向けの商品が少なく、知名度が低いのも悩みです」

―社会課題の解決にも

メモ
1906年創業。2022年3月期の売上高は約467億円。従業員数は2388人(9月末時点)。23年春の新卒採用予定は大卒が3人。神戸市灘区岩屋南町4の40。☎078・861・7791



石光商事が製造販売する飲料

「子どもが小学校を卒業するまで育児時短を取得できる制度など、長く働ける環境を整えています。ただ、条件面を重視するのではなく、企業の姿勢に共感してくれる人に来てほしい」

(まとめ・塩津あかね)

「コーヒーを抽出する際に、大量に出るかすを固形燃料にしました。これまでに産業廃棄物として燃やしていたものを再利用するため、二酸化炭素の排出が実質ゼロになる。昨年末にはこの燃料で焙煎した『地球にやさしいモカブレンド』を発売しています」

―求める人材は。

